

大目標	中目標（大目標を達成するための具体的な目的）	小目標（中目標を達成するための方法、手段）	主な指標の達成状況	現状値（計画策定時）	目標値（29年度末まで）	28年度実績	目標達成
生活習慣病を予防します	メタボリックシンドローム該当者・予備群を減らすために、健康診査等を活用した健康管理を実践します	① メタボリックシンドロームに関する正しい知識の普及や健診受診を促す健康教室を行います	◆ メタボリックシンドローム該当者・予備群の減少率 平成20年度の該当者及び予備群実数の10%減を目標としていますが、24年度から引き続き、目標達成は難しい状況です。27年度の4,958人（該当者2,894人、予備群2,064人）に比べると、28年度は該当者、予備群とも減少しました。今後も、健診受診体制や保健指導の充実、メタボリックシンドロームに関する正しい知識の普及に取り組んでいきます。	計4,075人 （内訳） 該当者 2,334人 予備群 1,741人 （平成20年度該当者及び予備群実数）	平成20年度比10%減 該当者 2,101人 予備群 1,567人	計4,712人 （内訳） 該当者 2,798人 予備群 1,914人 （平成28年度健診データ）	
		② 健診受診率の向上をめざし、健診を受けやすい体制づくりを進めます					
	運動・スポーツ活動の習慣化を推進します	① 運動・スポーツの魅力と必要性の理解を進めます	◆ スポーツ・学習活動等を実施している人の割合 平成28年度第4回区政モニターアンケートでは、57.5%で、前年度と比較すると0.2%減少した結果となりました。引き続き目標値の60%達成を目指します。	52.7% （平成23年度区政モニターアンケート）	60.0%	57.5% （平成28年度区政モニターアンケート）	
		② 身近で気軽にできる運動・スポーツ環境を整備します					
	適正飲酒の推進と喫煙者の減少をめざします	① 適正飲酒や喫煙・受動喫煙に関する正しい知識の普及啓発を行います	◆ 多量飲酒者（毎日かつ1日平均3合以上飲酒している人）の割合 前年度と比較すると、男性は横ばい、女性は増加しました。目標値の達成は難しい状況ですが、引き続き適正飲酒に関する普及啓発を行っていきます。	[40～74歳] 男 4.1% 女 0.8% （平成22年度健診データ）	平成22年度比10%減 男 3.7% 女 0.7%	[40～74歳] 男4.9% 女1.1% （平成28年度健診データ）	
		② 栄養のバランスを考えて食べる人を増やします	◆ 1日に必要な野菜の摂取量（350g）を知っている区民の割合 平成26年度に行った計画の「中間の見直し」で追加した目標です。26年度数値は29.1%で29年度末の目標値を40%と設定しましたが、27年度実績で36.6%であったため、29年度末目標値を上方修正し、45%としました。28年度は修正後の目標値を上回りましたが、更なる普及啓発を行っていきます。	29.1% （平成26年度区政モニターアンケート）	45% （「中間の見直し」までの目標値：40%）	46% （平成28年度区政モニターアンケート）	○
	糖尿病の予備群・有病者を減らします	③ 肥満者を減らします	◆ 糖尿病の予備群・有病者の割合 予備群・有病者の割合は、男女とも少しずつ減少し、目標値は達成しています。今後も引き続き、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、高血糖改善のための保健指導や健康教室を継続するとともに、糖尿病重症化予防事業を実施していきます。	[40～64歳] [予備群] 男 8.2% 女 3.8% [有病者] 男 9.6% 女 3.0% （平成22年度健診データ）	平成22年度比10%減 [40～64歳] [予備群] 男7.4% 女3.4% [有病者] 男8.6% 女2.7%	[40～64歳] [予備群] 男5.7% 女2.8% [有病者] 男8.2% 女2.3% （平成28年度健診データ）	○
口腔機能の維持・向上をめざします	① 自分の歯や口の健康を保つための知識を普及啓発します	◆ 歯の本数（60歳時） 平成26年度に行った計画の「中間の見直し」で、目標値の26本を27本に上方修正しました。27年度の実績は26.3本でしたが、28年度は26.1本と減少しました。定期的な歯科健診受診を促し、歯の喪失を予防することで、さらに目標値の達成を目指します。	25.2本 （平成22年度新宿区歯科健康診査：60歳）	27本 （「中間の見直し」までの目標値：26本）	26.1本 （平成28年度新宿区歯科健康診査：60歳）		
							② 歯科保健指導を充実します
	③ 歯と口の健康を支える環境の充実を図ります						

大目標	中目標（大目標を達成するための具体的な目的）	小目標（中目標を達成するための方法、手段）	主な指標の達成状況	現状値（計画策定時）	目標値（29年度末まで）	28年度実績	目標達成
総合的にがん対策を推進します	がん予防を推進します	① がん及びその予防に関する情報提供と普及啓発の充実を図ります ② たばこ対策を始めとした健康的な生活習慣を推進します ③ 肝炎ウイルス検診を推進します ④ 子宮頸がん予防ワクチン接種を推進します ※国の勧告により、現在、積極的な勧奨を差し控えています。	◆ がんに関する正しい知識を持っている人の割合 「がんを防ぐための新12か条」の各項目を知っているか、さらに実践しているかを調査しました。平成27年度区政モニターアンケートの結果では、7項目以上知っている（実践している）人の割合は、「知っている」は92.8%、「実践している」は38.7%でしたが、比較すると、28年度調査では、「知っている」人の割合は減少した一方で、「実践している」人の割合は増加しました。「実践している」人の割合はまだ目標値に届いていないため、正しい知識の普及啓発とともに、自身のことと位置付け、自らががん予防を実践していくように普及啓発を行っていきます。	—	50.0%	「知っている」 74.1% 「実践している」 45.7% （平成28年度区政モニターアンケートで、がん予防対策の12項目のうち、7つ以上知っている（実践している）人の割合）	○
	がんの早期発見・早期治療を推進します	① がん検診の受診率と精密検査受診率の向上をめざします ② 精度の高いがん検診を実施します ③ がんの早期治療を支援します	◆ がん検診受診率（胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がん、子宮がん、乳がん） 前年度に比べると、乳がん検診は横ばいですが、他の検診は受診率が減少しました。平成29年度は、再受診勧奨の対象者拡大等を実施し、更なる受診率の向上を目指します。	[胃がん]10.3% [大腸がん]13.9% [肺がん]11.9% [前立腺がん]15.8% [子宮がん（子宮頸がん・体がん）] 15.3% [乳がん]17.7% （平成22年度検診実績数値）	[胃がん]50% [大腸がん]50% [肺がん]50% [前立腺がん]50% [子宮がん（子宮頸がん・体がん）] 50% [乳がん]50%	[胃がん]11.2% [大腸がん]18.9% [肺がん]17.1% [前立腺がん]16.3% [子宮がん（子宮頸がん・体がん）]18.1% [乳がん]25.6% （平成28年度検診実績数値）	
	がん患者とその家族の苦痛や不安の軽減と療養生活の質の向上をめざします	① がん患者の在宅緩和ケアの充実と療養生活の質の向上をめざします ② 在宅療養に関する理解促進と相談体制の充実を図ります	◆ 「緩和ケア」について知っている人の割合 平成28年度に実施した「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」では、25年度（24.3%）に比べ、「知っている」人の割合が増えています。今後も広報や地域での学習会などで積極的に普及啓発を行っていきます。	26.5% （平成22年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」）	40.0%	30.0% （平成28年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」）	
こころの健康を大切にします	こころの健康づくりを支援します	① こころの病気について正しい知識を広めます ② ストレスと上手に付き合うためのストレスマネジメントを促進します ③ ストレスを軽減するために、休養の確保の重要性について普及啓発します	◆ ストレスを上手に対処している人の割合 ◆ 十分な睡眠がとれていると思う人の割合 平成28年度に実施した「健康づくりに関する調査」の結果、計画策定時の数値と比べて「ストレスを上手に対処している人」は9.7%減少しています。ストレスを感じている人、ストレスを感じていて解消できない人が増えているため、ストレスマネジメントの方法について、さらに普及啓発していきます。一方、「十分な睡眠がとれていると思う人」は計画策定時の数値と比べて7.3%増加しました。引き続き良質な睡眠がとれるよう普及啓発を行っていきます。	ストレスを上手に対処している人： 76.2% 十分な睡眠がとれていると思う人： 65.5% （平成22年度新宿区健康づくり区民意識調査）	ストレスを上手に対処している人： 85.0% 十分な睡眠がとれていると思う人： 75.0%	ストレスを上手に対処している人： 66.5% 十分な睡眠がとれていると思う人： 72.8% （平成28年度新宿区健康づくりに関する調査）	
	うつ等こころの不調への気づきや早期相談・早期治療を支援します	① こころの健康度に関する自己診断力の向上をめざします ② 身近な人の気づき・声かけ・つなぎ・見守りを促進します ③ 身近で気軽に相談できる環境を整備します	◆ 精神的に不調になったときにすぐに相談や治療を受けると思う人の割合 平成28年度に実施した「健康づくりに関する調査」では、計画策定時より割合が減少していました。また、「気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている」人ほど、早期相談・早期治療の認識が低いことも分かりました。こころの不調を感じた時に早期に相談や治療をすることの必要性について、さらに啓発していきます。	28.6% （平成22年度新宿区健康づくり区民意識調査）	50.0%	24.8% （平成28年度新宿区健康づくりに関する調査）	
	こころの病気の早期回復と社会復帰、そして再発防止を支援します	① こころの健康づくりと社会復帰に向けて、地域との連携・協力を進めます ② こころの病気を持つ人や家族の安定した療養生活を支援します	—	—	—	—	
女性の健康づくりを推進します	女性の健康に関する拠点施設を整備し、正しい知識の普及を図ります	① 女性の健康に関する拠点施設を整備します ② ライフサイクルに応じた女性の健康管理に関する正しい知識の普及を図ります	◆ 「女性の健康支援」に関するホームページへのアクセス件数（年間） ◆ 「女性の健康支援」に関するホームページの情報充実（累積） ホームページのアクセス件数は、平成28年度も目標を達成しました。コンテンツ数は、平成28年度は12に増やし、女性の健康支援事業を詳細に紹介するほか、専門医師による医療情報等のコラムを掲載するなど引き続き内容を充実させています。	[アクセス件数] 1,789件 [情報充実（コンテンツ数）] 1	[アクセス件数] 3,600件 [情報充実（コンテンツ数）] 6	[アクセス件数] 4,992件 [情報充実（コンテンツ数）] 12	○
	女性の健康を支える活動を推進します	① 女性の健康について相談する場や学習する場の充実を図ります ② 女性の健康づくりを進める交流活動を支援します ③ ネットワークを構築し、女性の健康づくりを推進します	◆ 「女性の健康づくり」に関する自主的な交流活動グループの設立や活動への支援 平成25年度に「乳がん体験者の会」、26年度に「女性の健康づくりサポーターの会」を立ち上げ、2団体の運営を継続して行っています。女性の健康づくりサポーターの養成と活動は、28年10月からNPOに委託して進めています。	—	2団体	2団体	○
	女性特有のがん対策を推進します	① 再掲 子宮頸がん予防ワクチン接種を推進します ※国の勧告により、現在、積極的な勧奨を差し控えています。 ② 子宮頸がん検診及び乳がん検診の受診率の向上をめざします	◆ （再掲）子宮がん（子宮頸がん・体がん）検診受診率 ◆ （再掲）乳がん検診受診率 前年度に比べ、子宮がんの受診率は減少しましたが、乳がんの受診率は同じでした。平成29年度は、再受診勧奨の対象者を拡大する等、更なる受診率の向上を目指します。	[子宮がん（子宮頸がん・体がん）] 15.3% [乳がん]17.7% （平成22年度検診実績数値）	[子宮がん（子宮頸がん・体がん）] 50.0% [乳がん]50.0%	[子宮がん（子宮頸がん・体がん）] 18.1% [乳がん]25.6% （平成28年度検診実績数値）	

大目標	中目標（大目標を達成するための具体的な目的）	小目標（中目標を達成するための方法、手段）	主な指標の達成状況	現状値（計画策定時）	目標値（29年度末まで）	28年度実績	目標達成
健康的で豊かな食生活を実践できる食育を推進します	生涯にわたって健康をつくる食習慣を実践します	① 規則正しい食生活を支援します	◆ 食育に関心を持っている区民の割合 90%台を維持していますが、引き続き目標達成を目指します。	91.5%	95.0%	92.6% （平成28年度区政モニターアンケート）	
		② 自立した食生活を送るための知識や技術の向上を図ります	◆ 毎日朝食を食べる子どもの割合 前年度と比較して1.3%減少しました。中学生の減少率が大きいため、中学生に向けた普及啓発を強化していきます。	92.8%	95.0%	90.1% （平成28年度新宿区立小学校及び中学校における食育アンケート）	
		③ 食の安全について正しい情報提供を行います					
	食の大切さを見直し、食文化を継承していきます	① 食に感謝するところを育み食事のマナーを身につけます	◆ 食事を残さず食べるようにしている子どもの割合 前年度と比べ2.4%減少しています。関係部署と協力し、目標達成を目指します。	68.0%	80.0%	72.9% （平成28年度新宿区立小学校及び中学校における食育アンケート）	
		② 食文化の継承のための活動を支援します					
		③ 食の生産や流通等について理解を深め、環境と調和を図っていきます					
食を通じたコミュニケーションを広げます	① 食に携わるネットワークを活用した食育を推進します	◆ 食育ネットワークを構成する団体数 平成27年度に、参加団体を固定した会議方式から、誰もが参加できるネットワークに変更しました。団体数は22団体増加し、目標は達成していますが、引き続きネットワークの周知及び団体の募集を行い、団体数を増やしていきます。	—	12団体	41団体	○	
	② 共食を通じた食のコミュニケーションを拡大します						
	③ 食育ボランティアの育成と活動を支援します						
	④ 食を通して国際交流や多文化共生を推進します						